

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02502

研究課題名(和文) 資質・能力を育成する授業づくりを軸にした学校改善の方法論に関する開発研究

研究課題名(英文) a

研究代表者

石井 英真 (Ishii, Terumasa)

京都大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：10452327

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、急速に進む公教育の構造変容をふまえて、「現代社会において学校はどのような役割を果たすべきで、どのような授業のあり方をめざしていけばよいのか。」、そして、「資質・能力を育む授業づくりを軸にしながら、それをどう組織化し学校改善につなげていけばよいのか。」という問いを追求した。そして、「オーセンティック(真正)でインクルーシブな学び」の実現という公教育のバージョンアップのためのヴィジョンを提起し、その実践指針を明らかにした。また、目指す児童・生徒像(ヴィジョン)の探究を軸に、教職員の学習する組織を生み出していく、ヴィジョン・ドリブンの学校改善の方法論を理論的・実践的に精緻化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、職人的なアートとして遂行されてきた日本の授業実践・学校改善実践の蓄積も整理しつつ、それに科学性やシステム化を志向する米国等の知見を統合することで、教育「変革」期の現在において、新たな「日本型学校教育」の形を提起するものである。また、従来別々に検討されてきた授業実践と学校経営を統合的にとらえるものである。すなわち、学校という組織の特殊性に即して学校共同体(教師だけでなく、保護者や地域住民等も含む)の形成の方法論を検討するものである。他方、教師個人単位で議論されがちな、教育の目標・内容・方法・評価や教師の力量形成のあり方を、教師間の学び合いや共同体形成という観点からとらえ直すものである。

研究成果の概要(英文)：In this research, I considered and pursued the following questions in light of the rapid structural transformation of public education: What role should schools play in "Society 5.0", and what kind of learning should they aim for? And, How should we organize and improve schools based on the creation of instruction that nurture qualities and abilities? I proposed a vision for upgrading public education to realize "authentic and inclusive learning," and clarified the practical guidelines for this vision. In addition, I theoretically and practically elaborated the vision-driven school improvement approach that created learning organizations for teachers and staff based on the search for the vision of the students they are aiming for.

研究分野：教育方法学

キーワード：資質・能力 学校改善実践 学習する組織 真正の学び 「教科する」授業 ヴィジョン・ドリブ  
授業研究 日本型学校教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領は、内容ベースから「資質・能力」(コンピテンシー・)ベースへのカリキュラム改革を提起するものである。そこでは、21世紀型の学びや高次の学力に焦点を合わせて、目標、カリキュラム、授業、評価、入試、教員養成など、教育システムの総体を一体のものとしてデザインし直すことが企図されている。そして、教育現場においても、「アクティブ・ラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに授業改善の取り組みが展開されている。

しかし、教師個人レベルの授業改善が進むことが必ずしも、学校改善や子どもの学びの充実につながるとは限らない。持続的な授業改善・学校改善につなげていくためには、教師たちが目の前のすべての子どもたちの学びにチームとして責任を引き受け、協働で授業改善に取り組む学校システムと教員文化の構築が不可欠である。学習指導要領改訂を受けて、現場においても授業改善が進み始めている今、そうした点の取り組みを学校単位や学校間という面で組織化し、日本の新たな教育文化(教育実践のスタイルや学校組織の当たり前)として根付かせていくことが喫緊の課題である。

### 2. 研究の目的

本研究では、「現代社会において学校はどのような役割を果たすべきで、どのような授業のあり方をめざしていけばよいのか。」そして、「資質・能力を育む授業づくりを軸にしながら、それをどう組織化し学校改善につなげていけばよいのか。」という問いに迫るべく、以下の三つの研究目的を設定した。

- (1) 現代社会において学校が保障すべき資質・能力の中身とそれを育成するカリキュラム・授業・評価のあり方を解明すること。
- (2) 資質・能力を育てる教育活動を担う教師たちが協働し力量を高め合う、授業づくりを軸にした学校改善の方法論を解明すること。
- (3) 日本の小・中・高等学校でのアクション・リサーチを進め、学校改善の担い手(管理職、研究主任、指導主事、教師教育や学校改善に携わる大学教員等)を対象とする研修プログラムを開発すること。

### 3. 研究の方法

研究目的 に関して、OECD の Education 2030 事業をはじめ、各国において、21世紀型の学力や学びや評価のあり方が提起されている。しかも、それらは量的・質的エビデンスに基づいたものとして体系化されつつある(例:概念に焦点化したカリキュラム、プロジェクト学習、共同学習、パフォーマンス評価、形成的評価など)。また、研究目的 に関しては、日本発祥の現職教師の力量形成の方法論である、「授業研究(lesson study)」「(授業を教師が協働でデザインし、授業観察を行い、省察し学び合う)を、教師の学習共同体の形成や「学校変革(school change)」につなげる取り組みも、各国で展開している。そして、こうした21世紀型の学力を育成する教育方法や学校づくりの方法の体系化という点で、米国は研究の蓄積を有している。

そこで、研究目的(1)(2)については、日米の理論と実践を対象に、文献調査と国内外での現地調査を行った。(3)については、国内の小・中・高等学校において、授業改善・学校改善を実際に進めながら研究を行った。職人的なアートとして遂行されてきた日本の授業実践・学校改善実践の蓄積も整理しつつ、それに科学性やシステム化を志向する米国等の知見を統合することで、理論的枠組みを構築することを試みた。また、その枠組みの妥当性を学校現場とのアクション・リ

サーチによって吟味し、学校改善の担い手向けのワークショップ教材や研修プログラムを開発し、実際に研修を実施した。

本研究は、学校改善実践(授業改善と学校の共同体形成の両方に関わる)を対象とし、従来別々に検討されてきた授業実践と学校経営を統合的にとらえるものである。すなわち、経営学や組織論一般ではなく、学校という組織の特殊性に即して、また、資質・能力の育成という現代日本の学校の機能と役割に即して、学校共同体(教師だけでなく、保護者や地域住民等も含む)の形成の方法論を検討するものである。他方、教師個人単位で議論されがちな、教育の目標・内容・方法・評価、および教師の力量形成のあり方を、教師同士の学び合いや共同体形成の促進という観点からとらえ直すものである。

#### 4. 研究成果

コロナ禍で顕在化した問題状況を背景に、Society 5.0に対応すべく急速に進む公教育の構造変容という新たな問題状況をふまえて、それぞれの研究目的を再構成しつつ深めた。

カリキュラムや授業の中身やあり方に関わる、研究目的 に関しては、コロナ禍で主題化された学校の機能と役割に関する問いを深め、資質・能力ベースのカリキュラム改革の延長線上に、公教育のバージョンアップをどう図るのかについて考究した。具体的には、履修主義と修得主義という教育課程の履修原理、「個別最適な学び」概念をめぐる、教育の公正性や教育の個別化・個性化をめぐる論争点などについて歴史的・原理的に検討を進めた。

そして、「個別最適な学び」を「主体的・対話的で深い学び」と統一的に実現していく道筋について考え、オンライン学習やICT活用を組み込みながら、「真正の学び(authentic learning)」や「教科する(do a subject)」授業といった、本研究が提起してきた教育実践のヴィジョンを、「オーセンティック(真正)でインクルーシブな学び」の実現という形で、拡張し再構成し、その実践指針も明らかにした。また、教科において「真正の学び」を追求する「教科する」の実践指針を、「総合的な学習(探究)の時間」等での横断的で探究的な学びにまで拡張した。具体的には、成長目標ベース、パースペクティブ変容、エージェンシーの育成という設計原理を提起するとともに、学びにおける「共同注視」関係の成立を起点として、対象世界への子どもと支援者の「共同責任」関係、さらには子どもたちによる学校や教師の「学び超え」へと展開する、自律的な学びが実現するメカニズムをモデル化した。さらに、「学びの舞台」を軸に単元を設計し評価するパフォーマンス評価を軸にした、新しい観点別評価のあり方を提起した。

学校としての組織的な実践改善の方法論に関わる研究目的 に関しては、まず、共同体としての性格の強い「日本の学校」の意義と課題を歴史的に明らかにする作業を行った。その上で、学校や教師の仕事のコアな部分を見極めながら、保護者や地域社会や民間サービスなどとの連携も含めた学校経営のあり方についても検討し、教職の専門性と専門職性の再定義をめぐる論点についても整理した。

近年の教育政策は、既存の枠組みをある程度生かしながら「改善」や「改革」を進めるのみならず、日本の学校の基盤となるルールや制度的・組織的枠組みやシステムをゼロベースで見直そうとする、教育「変革(transformation)」政策として、教育課程政策や教師教育政策などを横断するスキームの下で展開されている。そして、この教育「変革」政策は、「Society 5.0」という政策アイデアを軸に、「個別最適な学び」と「教育DX(デジタルトランスフォーメーション)」とを掛け合わせ、レイヤー構造のプラットフォームビジネスをメタファーとして構想されている。こうした教育「変革」政策の志向性やスキームの内実を明らかにするとともに、そのもたらすポジティブな側面だけでなく、懸念される負の側面や課題などについても取り上げ、そ

の克服のための方途について提起した。

以上のような、ガバナンス改革を含んだ、共同体としての「日本の学校」の再構築の動きをふまえながら、目指す児童・生徒像として明確化されたビジョン（価値）の探究で背骨を通し、教職員の学習する組織を生み出していく、ビジョン・ドリブンの学校改善の方法論を理論的・実践的に精緻化した。具体的には、EBPM やロジックモデル等、目的合理的な管理・経営を志向するアプローチの負の側面（線形で分析的な因果関係モデルによる部分最適、指標やモデルの独り歩きによる外発性）を緩和する上で、究極的に目指す具体的なまるとの児童・生徒像（ビジョン）に始まりビジョンに戻る（目指す子ども像自体の理解の深化につなげる）ことの重要性を示した。また、ビジョン・ドリブンであることにより、PDCA サイクルの駆動を、「学習する組織」づくりと接続させ、内発的で持続的な学校改革につなげる方法論を提示した。そして、学校に關する多様なアクターが子どもたちの姿を共にまなざすような、応答的な三項関係（共同注視）を意識することの有効性を示した。最後に、学校のガバナンスとマネジメントの構造的変容に対し、PDCA と説明責任の論理を価値探究と応答責任として再構築し、学校現場をエンパワメントする必要性を提起した。

こうした、学校ぐるみの授業改善を軸にしたカリキュラム・マネジメントの方法論については、大阪府教育センターや広島県教育委員会などにおいて、高等学校教員の研修プログラムとして具体化されており、オンライン等で研修の設計の助言や研修の提供を継続的に行っている。また、「真正の学び」に向けた授業づくり、ICT 活用の方法論、学習評価のあり方などについても、全国各地の教育センター等で研修を提供したり、初等・中等教育段階の教員とオンライン等での共同授業研究などを通して、アクション・リサーチを展開した。

上に述べたような研究成果については、著作や論文として発表するとともに、公開シンポジウムに招待されるなど、自らの専門分野以外の教育研究の諸学会において、広く発表することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 西岡加名恵、石井英真、久富望、肖瑶	4. 巻 68
2. 論文標題 デジタル化されたドリルの現状と今後の課題 算数・数学に焦点を合わせて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 京都大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 261-285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石井英真	4. 巻 28
2. 論文標題 学校制度改革の課題と展望 『令和の日本型学校教育』に見る公教育の構造変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教育制度学会 教育制度学研究	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石井英真	4. 巻 33
2. 論文標題 コンピテンシー・ベースは日本の学校の教育実践をどう変えたか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フランス教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石井英真	4. 巻 30
2. 論文標題 教職の専門性と専門職性をめぐる現代的課題 劣位化・脱専門職化を超えて再専門職化の構想へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教師教育学会年報	6. 最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 1623
2. 論文標題 コロナの先の学校と学びの姿を展望する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 信濃教育	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 731
2. 論文標題 学習評価と「指導と評価の一体化」を問う	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 24
2. 論文標題 米国カリキュラム研究史覚書 「カリキュラム作成の基本：カリキュラム作成に関する委員会による共同宣言」を読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育方法の探究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/262441	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 87(4)
2. 論文標題 コミュニティとしての「日本の学校」のゆくえ 教育の自由化・個性化と「小さな学校」論をめぐる論争点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 42-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 26
2. 論文標題 カリキュラム・マネジメント再考 授業改善を軸にした学校改革へー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州教育経営学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 62
2. 論文標題 資質・能力ベースの改革とカリキュラム研究の課題 教育課程論的関心の再評価	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育経営学会紀要	6. 最初と最後の頁 97-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 1429
2. 論文標題 教材研究の深め方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 794
2. 論文標題 授業づくりの深め方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 9-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 802
2. 論文標題 「新しい生活様式」における学校と学び	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 581
2. 論文標題 データ駆動型社会における人間と教育 10 教職の専門性と教育の公共性のゆくえ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 108-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 669
2. 論文標題 withコロナを公教育のバージョンアップにつなぐために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家庭科	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 66(8)
2. 論文標題 ポストコロナ時代を見据えた教育のオンライン化の課題について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 石井 英真	4. 巻 10
2. 論文標題 ウィズコロナに必要な3つの環境整備 公教育のバージョンアップに向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 先端教育	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 53(8)
2. 論文標題 いま学校にできること-withコロナの中で学ぶ権利を保障するために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高校教育	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 1232
2. 論文標題 質の高い学びを実現するために-「教科する」授業と授業づくりの不易-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 12
2. 論文標題 新学習指導要領下での学習評価改革のあり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リーダーズ・ライブラリ	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 2019年4・5月号
2. 論文標題 変わる高校教育 高校における資質・能力の育成と学習評価 Part 1 概説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Guideline	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 773
2. 論文標題 観点別学習状況 新三観点と情意領域の評価をどう考えるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 10-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 709
2. 論文標題 小学校における学習評価はどう変わるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 38
2. 論文標題 新学習指導要領で評価はどう変わるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 12
2. 論文標題 教師が学び合う「実践研究」の方法－授業改善を軸にした学校改革へ－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 スクールリーダー研究－教師の学習コミュニティ－	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 777
2. 論文標題 パフォーマンス評価の提唱と拡大	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 第22回
2. 論文標題 「見方・考え方」概念がカリキュラム開発に提起するもの－教科教育の現代的課題－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 今なぜ「見方・考え方」なのか－教育内容・教科内容の再構築	6. 最初と最後の頁 6-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 39
2. 論文標題 新学習指導要領で評価はどう変わるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 52(13)
2. 論文標題 学習指導要領改訂の根っこを探る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊高校教育	6. 最初と最後の頁 78-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 2019年11月号
2. 論文標題 授業改善を軸にした学校づくり-PDCAサイクルから探究する組織へー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Guideline	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 2019年
2. 論文標題 授業改善を軸にした学校づくり-PDCAサイクルから探究する組織へー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 未来のマナビフェス2019-2030年の学びをデザインする-実施報告書	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 26
2. 論文標題 指導要録改訂と評価改革の方向性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 TEADA	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真・梅津 健志・森田 泰司	4. 巻 19
2. 論文標題 座談会 目標・指導・評価の一体化を図り、未来の学習につながる評価の実現を	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 VIEW21 2019年vol.3 教育委員会版	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 841
2. 論文標題 ほんものの学力を試す総括的で挑戦的な課題づくりを	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語教育	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 40
2. 論文標題 新学習指導要領で評価はどう変わるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教師のチカラ	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安彦 忠彦・石井 英真・宮本 みち子・新井 郁男	4. 巻 716
2. 論文標題 新春座談会 学校とは何かー改めて教育を問い直すー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 4-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 24
2. 論文標題 主体的・対話的で深い学びの実現のために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第24回 全国市立大学附属・併設 中学校・高等学校 教育研究集会 報告集	6. 最初と最後の頁 154-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 英真	4. 巻 49
2. 論文標題 非認知的能力の育て方を問うースキル訓練を超えてー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井英真	4. 巻 717
2. 論文標題 「未来の学校」をどう構想するか 「大きな学校」と「小さな学校」の狭間で	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育展望	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 日本近代の教育方法史におけるTOSSの価値
3. 学会等名 第35回日本教育技術学会「日本近代の教育方法史におけるTOSSの価値」パネルディスカッション・特別講演（ハイブリッド）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 協働的な学びと個別最適な学び
3. 学会等名 第7回日本授業UD学会全国大会 「『協働的な学び×個別最適な学び』と授業UD」全体講演（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 The COVID-19 Pandemic and the Structural Transformation of Public Education in Japan: Controversies over 'Japanese-style School Education'
3. 学会等名 The 21st International Conference on Education Research, KU-SNU Special session（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 わかる授業へ、そして「教科する」授業へー授業づくりの5つのツボ（原理・原則）ー
3. 学会等名 日本授業UD学会東京支部 2021年9月定例会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井英真
2. 発表標題 教育実践研究の立場から EBPMと内発的な学校改革とをつなぐ視点
3. 学会等名 日本教育政策学会 第28回大会 公開シンポジウム「EBPM 時代における教育実践と制度改革の枠組みの構築 ～公立学校の変革支援の枠組みをどう創るか～」指定討論（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 教育学から公教育オンライン対応を考える
3. 学会等名 日本デジタル教科書学会 研究会「公教育オンライン対応開始の10年後を語る－教育学の知見をふまえて－」第9回年次大会（京都大会） プレ企画@京都大学（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 オンライン授業と学校のICT活用が問いかけていること
3. 学会等名 日本教育学会Web連続座談会2：オンライン授業と学校のICT活用 - リアルとオンライン、それぞれの価値と課題 - （オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 コロナ禍の先に「公教育のバージョンアップ」を構想する
3. 学会等名 日本デジタル教科書学会 第9回年次大会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 コンピテンシー・ベースは日本の学校の教育実践をどう変えたか
3. 学会等名 フランス教育学会研究懇話会「コンピテンシー・ベースの功罪 日仏における学校の教育実践をどう変えたか」（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 コロナ禍における教育目標・評価の課題
3. 学会等名 教育目標・評価学会 第31回大会 意見交換会「コロナ禍における教育目標・評価のあり方」(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 ICTを活用した公正で質の高い教育の実現に向けた展望と課題
3. 学会等名 国立教育政策研究所 令和2年度教育改革国際シンポジウム「高度情報技術の進展に応じた教育革新フェイズ2 シンポジウム～ICTを活用した公正で質の高い教育の実現～」第三部(ビジョナリートーク)(オンライン)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 「見方・考え方」概念がカリキュラム開発に提起するもの 教科の本質と能力の汎用性をつなぐ論理
3. 学会等名 日本教育方法学会 第22回研究集会「今なぜ「見方・考え方」なのか 教育内容・教科内容の再構築 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 資質・能力ベースの改革とカリキュラム研究の課題 教育課程論的関心の再評価
3. 学会等名 日本教育経営学会第59回大会 公開シンポジウム「新学習指導要領のもとでの『教育課程経営』の理論的・実践的課題」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 高次の思考力を育むカリキュラムと評価 ポスト・ブルームの評価論の日本的展開
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会 公開シンポジウム「評価を生かしたカリキュラム設計」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 カリキュラム・マネジメント再考 授業改善を軸にした学校改革へ
3. 学会等名 九州教育経営学会 第102回定例研究会 公開シンポジウム「カリキュラム・マネジメント再考」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 今めざすべき授業のあり方 - 「真正の学び」を実現する「教科する」授業へ -
3. 学会等名 中部教育学会第68回 公開シンポジウム「『主体的・対話的で深い学び』の授業づくりを問い直す」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 「強いエビデンス」の産出とそれに基づく教育を進める前に問うべきこと
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会自主企画シンポジウム 指定討論「知見の統合は何をもたらすのか」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 学習評価改革の方向性と論点
3. 学会等名 第69回 日本理科教育学会全国大会 課題研究発表 「学習指導要領の改訂で小学校理科の評価がどのように変わるのか これから求められる評価のあり方とその指導」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 新指導要録の特徴と課題
3. 学会等名 日本カリキュラム学会主催 秋のセミナー2019「新指導要録と学習評価を考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井 英真
2. 発表標題 教育目標論の立場から 日本型「観点別評価」の問題
3. 学会等名 教育目標・評価学会第30回大会 課題研究1「観点別評価を授業改善とどうつなげるか」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計30件

1. 著者名 西岡 加名恵、石井 英真、田中 耕治 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 304(25-52, 79-116)
3. 書名 新しい教育評価入門〔増補版〕	

1. 著者名 青木栄一、丸山英樹、下司晶、濱中淳子、仁平典宏、石井英真 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 320(223-258, 283-304)
3. 書名 教育学年報12 国家	

1. 著者名 石井英真、鈴木秀幸 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 184(10-13, 18-21, 24, 26, 28, 32-33, 38-40, 42他)
3. 書名 ヤマ場をおさえる学習評価 中学校	

1. 著者名 石井英真、鈴木秀幸 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 図書文化社	5. 総ページ数 224(10-13, 18-21, 24, 26, 28, 32-33, 38-40, 42他)
3. 書名 ヤマ場をおさえる学習評価 小学校	

1. 著者名 西岡加名恵、石井英真 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 176(9-21,172-173)
3. 書名 学力テスト改革を読み解く！確かな学力を保障するパフォーマンス評価	

1. 著者名 石井 英真、河田 祥司 著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 212(3-7, 102-110, 194-201)
3. 書名 GIGAスクールのなかで教育の本質を問う	

1. 著者名 「読み」の授業研究会 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 192(159-166)
3. 書名 国語の授業で「対話的な学び」を最大限に生かす	

1. 著者名 教育目標・評価学会 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 280(21-31)
3. 書名 つながる・はたらく・おさめる の教育学	

1. 著者名 広瀬裕子 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 244 ( 13-37)
3. 書名 カリキュラム・学校・統治の理論	

1. 著者名 ぎょうせい 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 136(42-25)
3. 書名 新教育ライブラリPremier vol.1	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 148
3. 書名 未来の学校	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 404
3. 書名 授業づくりの深め方	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 544
3. 書名 [再増補版]現代アメリカにおける学力形成論の展開	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 264(2-3, 57, 59, 65-67, 73, 83, 126)
3. 書名 「まえがき」「41 教育目的/教育目標」「49 ブルーム・タキソノミー」「50 能力の要素と階層レベル」「55 学力評価」「63 真正の学力」「100 完全習得学習」西岡加名恵・石井英真編著『教育評価重要用語事典』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 320(10-16, 17-41, 281-326, 327-330)
3. 書名 「序章」「第1章 資質・能力ベースのカリキュラム改革 学校ですべきこと、できることは何か?」「座談会 いま一度、立ち止まり、語り合っておきたいこと」「おわりに」石井英真編著『流行に踊る日本の教育』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 184(3-4, 10-24)
3. 書名 「はじめに」「解説編 新学習要領でめざす算数科の『主体的・対話的で深い学び』」石井英真編著『小学校新教科書ここが変わった!算数』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 208(2-3)
3. 書名 「巻頭言『オンライン学習』の先に何を見るか」石井英真監修, 秋山貴俊・長瀬拓也編著『ゼロから学べるオンライン学習』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264(28-36)
3. 書名 「第3節 内容ベースを超える算数カリキュラムを構想する」溝口達也編著『新しい算数教育の理論と実践』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 175(156-169)
3. 書名 「『未来形の学び』の落とし穴と『未来を創る学び』への視点」「未来科準備室」編『もし「未来」という教科があったなら』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 214(62-70)
3. 書名 「子どもたちの『学びを保障する』とはどういうことか」『教職研修』編集部編『ポスト・コロナの学校を描く』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 136(112-113)
3. 書名 「主体的・対話的で深い学び」と評価のあり方 コロナ禍の中でいま大事にしたいこと」ぎょうせい編『新教育ライブラリPremier vol.2』	



1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 164(107-113)
3. 書名 「学校のカリキュラム・マネジメントにどう位置づけるか」奥村好美・西岡加名恵編著 『「逆向き設計」実践ガイドブック』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 220(34-45,52-55)
3. 書名 「観点別学習状況の評価のポイント」「『知識・技能』の評価のポイント」「『思考・判断・表現』の評価のポイント」「『主体的に学習に取り組む態度』の評価方法」市川伸一編集 『速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本標準	5. 総ページ数 248(3, 8-14, 16-23)
3. 書名 「はじめに」「小学校児童指導要録（参考様式）記入例」「新指導要録の提起する学習評価改革」石井英真・西岡加名恵・田中耕治編著 『小学校 新指導要録改訂のポイント』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 188(164-171)
3. 書名 「『見方・考え方』をどうとらえるかーポスト『現代化』の教科教育論に向けて」「読み」の授業研究会編 『国語授業の改革19 国語の授業で「言葉による見方・考え方」をどう鍛えるのか』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 468(109-140 )
3. 書名 「教育方法学 『教育の学習化』を問い直し教育的価値の探究へ」下司晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下誠編 『教育研究の新章』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 200(64-73)
3. 書名 「指導要録の改善と取扱いのポイント」田中耕治編集代表 『シリーズ 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編 資質・能力の育成と新しい学習評価』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 160(2-12)
3. 書名 「『主体的・対話的で深い学び』を深く読み解く」田中耕治編集代表 『シリーズ 学びを変える新しい学習評価 理論・実践編 評価と授業をつなぐ手法と実践』	

1. 著者名 石井 英真・熊本大学教育学部附属小学校	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 128(8-17)
3. 書名 「今求められる学力と授業づくりの方向性ー深い学びをどう捉えるかー」 『粘り強くともに学ぶ子どもを育てるー教材と深く対話する「教科する」授業の理論と実践』	

1. 著者名 石井 英真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学校図書	5. 総ページ数 168(34-42)
3. 書名 「小学校におけるアクティブ・ラーニング」磯崎哲夫編著 『初等理科教育法～先生を目指す人と若い先生のために～』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------